

平成 29 年 6 月 11 日 (日) 施行

第 146 回 日商簿記検定試験 2 級 解説

第 1 問

1. クレジット手数料は、支払手数料として処理する。

支払手数料：販売代金 $\text{¥}200,000 \times 2\% = \text{¥}4,000$

2. 研究開発のために支出した費用は、すべて研究開発費で処理する。

研究開発費：従業員の給料 $\text{¥}300,000 +$ 機械購入代金 $\text{¥}5,000,000 = \text{¥}5,300,000$

3. 直接控除方式により、借方に固定資産圧縮損を計上し、貸方は同額だけ備品の金額を直接減額する。

4. 会社設立時の新株発行、払込金は普通預金とした。そのうちの 8 割に相当する金額を資本金とし、残額は資本準備金として処理する。

払込金： $2,500 \text{ 株} \times @ \text{¥}1,000 = \text{¥}2,500,000$

資本金： $\text{¥}2,500,000 \times 80\% = \text{¥}2,000,000$

資本準備金： $\text{¥}2,500,000 \times 20\% = \text{¥}500,000$

5. 税抜方式により、仮払消費税と仮受消費税の金額を相殺し、納付する消費税を未払消費税としてする。

未払消費税：仮受消費税 $\text{¥}830,000 -$ 仮払消費税 $\text{¥}360,000 = \text{¥}470,000$

第 2 問

問 1 銀行勘定調整表の作成

- ① 未取付小切手 → 銀行残高を減算
- ② 掛代金の未預入 → 銀行残高を加算
- ③ 振込の未記帳 → 銀行残高を減算
- ④ 時間外預入 → 銀行残高を加算

問 2 東京商店の修正仕訳

- ① 未取付小切手、修正仕訳不要
- ② 訂正仕訳

誤仕訳：

(借) 当座預金	16,000	(貸) 売掛金	16,000
----------	--------	---------	--------

正しい仕訳：

(借) 現金	16,000	(貸) 売掛金	16,000
--------	--------	---------	--------

訂正仕訳：

(借) 現金	16,000	(貸) 当座預金	16,000
--------	--------	----------	--------

- ③ 振込の未記帳、商店側の銀行残高を増やす。
- ④ 時間外預入、修正仕訳不要

問 3 現金および当座預金の金額の計上

現金：通貨 $\text{¥}121,200 +$ 他人振出しの小切手 $\text{¥}16,000 +$ 配当金領収証 $\text{¥}7,500 +$ 送金小切手 $\text{¥}10,000$
 $= \text{¥}154,700$ ※収入印紙→貯蔵品、郵便切手→貯蔵品

当座預金：銀行勘定調整表より、当座預金勘定の残高 $\text{¥}333,700 -$ ② $\text{¥}16,000 +$ ③ $\text{¥}23,000$
 $= \text{¥}340,700$

第3問

未処理事項

1. 売掛金回収不能

(借) 貸倒損失	30,000	(貸) 売掛金	30,000
----------	--------	---------	--------

当期の販売から生じた売掛金の回収不能は、貸倒損失で処理する。

※前期発生 of 売掛金が回収不能となった場合：貸倒引当金で処理する。

2. 建設仮勘定

(借) 建物	120,000	(貸) 建設仮勘定	160,000
修繕費	40,000		

増改築工事による増加部分は、すでに使用が開始されているので、修繕費を控除して残額を建物に振り替える。

3. 引落の未処理

(借) 水道光熱費	3,000	(貸) 当座預金	3,000
-----------	-------	----------	-------

4. 仮払金の判明

(借) 退職給付引当金	30,000	(貸) 仮払金	30,000
-------------	--------	---------	--------

決算整理事項

1. 売上原価の計上

(借) 売上原価	308,000	(貸) 繰越商品	308,000
売上原価	2,070,000	仕入	2,070,000
繰越商品	272,200	売上原価	272,200
商品評価損	9,500	繰越商品	9,500
棚卸減耗費	13,200	繰越商品	13,200

期末帳簿棚卸高：A商品 200個×@¥500=¥100,000 }
B商品 420個×@¥410=¥172,200 } ¥272,200

商品評価損：A商品(@¥500-@¥450)×190個=¥9,500

B商品 正味売却価額@¥610>単価(原価)@¥410、評価損は計上しない。

棚卸減耗費：A商品(200個-190個)×@¥500=¥5,000 }
B商品(420個-400個)×@¥410=¥8,200 } ¥13,200

2. 貸倒引当金の計上

(借) 貸倒引当金繰入	260	(貸) 貸倒引当金	260
-------------	-----	-----------	-----

{受取手形¥106,000+売掛金(¥200,000-¥30,000)}×1%-貸倒引当金¥2,500=¥260

3. 有形固定資産の減価償却

(借) 減価償却費	95,840	(貸) 建物減価償却累計額	28,000
		備品減価償却累計額	67,840

旧建物の減価償却：¥750,000÷30年=¥250,000

増改築の減価償却：¥120,000÷(30年-10年)×6/12=¥3,000

※問題文により、増改築工事による増加部分は、すでに決算日の6か月前から使用されているため、減却償却は、6か月分だけ計上する。

備品の減価償却：(¥530,000-¥190,800)×20%=¥67,840

4. 満期保有目的債券の償却

(借) 満期保有目的債券	1,000	(貸) 有価証券利息	1,000
--------------	-------	------------	-------

(額面総額¥600,000－取得価額¥595,000)÷償却期間5年＝¥1,000

償却期間5年：当期首平成28年4月1日～平成33年3月31日

5. 為替差損益の計上

(借) 為替差損	1,000	(貸) 買掛金	1,000
----------	-------	---------	-------

決算時レート¥115×200ドル－仕入時¥22,000＝¥1,000

6. 退職給付費用の計上

(借) 退職給付費用	50,000	(貸) 退職給付引当金	50,000
------------	--------	-------------	--------

期首退職引当金残高¥180,000－未処理事項(4)¥30,000＋当期退職給付費用

＝期末退職引当金残高¥200,000

∴ 当期退職給付費用：¥50,000

7. 前払保険料の計上

(借) 前払保険料	8,000	(貸) 保険料	8,000
-----------	-------	---------	-------

1年分¥12,000×8か月／12か月＝¥8,000

8か月：次期平成29年4月1日～平成29年11月31日

第4問

問1 仕訳の作成

材料：実際購入単価 ¥150/m² × 購入量 2,800m² = ¥420,000

問2 各勘定の記入

材料勘定：

	実際直接材料費 ¥390,000					
実際単価 ¥150/m ² 標準単価 ¥140/m ²	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">価格差異 △ ¥26,000</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">標準直接材料費 ¥350,000</td> <td style="text-align: center;">数量差異 △ ¥14,000</td> </tr> </table>	価格差異 △ ¥26,000		標準直接材料費 ¥350,000	数量差異 △ ¥14,000	標準消費量 実際消費量 2,500/m ² 2,600/m ²
価格差異 △ ¥26,000						
標準直接材料費 ¥350,000	数量差異 △ ¥14,000					

買掛金：問1の仕訳より

標準消費量：標準消費量 2m²/1個 × 当月実際生産量 1,250個 = 2,500m²

仕掛品：標準単価 ¥140/m² × 標準消費量 2,500m² = ¥350,000

価格差異：(標準単価 ¥140/m² - 実際単価 ¥150/m²) × 実際消費量 2,600m² = △ ¥26,000 (借方差異)

数量差異：(標準消費量 2,500m² - 実際消費量 2,600m²) × 標準単価 ¥140/m² = △ ¥14,000 (借方差異)

月末有高：実際単価 ¥150/m² × (購入量 2,800m² - 実際消費量 2,600m²) = ¥30,000

仕掛品勘定：

仕掛品 - 原料費	
月初仕掛品 200個	当月完成品 1,200個
当月投入量 1,250個	月末仕掛品 250個

仕掛品 - 加工費	
月初仕掛品 100個	当月完成品 1,200個
当月投入量 1,200個	月末仕掛品 100個

材料：標準単価で計算した金額を材料勘定から仕掛品に振り替える。

加工費：標準単価 ¥240 × 当月投入量 1,200個 = ¥288,000

製品：標準製造原価 ¥520 × 当月完成品 1,200個 = ¥624,000

月末有高：原料費標準単価 ¥280 × 250個 = ¥70,000
 加工費標準単価 ¥240 × 100個 = ¥24,000 } ¥94,000

第5問

仕掛品 - 直接材料費

¥1,019,000	月初仕掛品 400 個	完成品 2,300 個	仕損費は完成品負担 ¥5,819,000
	当月投入量 2,600 個		
¥6,240,000	仕損 100 個	¥1,440,000	
	月末仕掛品 600 個		

月末仕掛品原価： $¥6,240,000 \div 2,600 \text{ 個} \times 400 \text{ 個} = ¥1,440,000$

当月完成品原価： $(¥1,019,000 + ¥6,240,000) - ¥1,440,000 = ¥5,819,000$

仕掛品 - 加工費

¥850,000	月初仕掛品 200 個	完成品 2,300 個	仕損費は完成品負担 ¥9,430,000
	当月投入量 2,500 個		
¥9,750,000	仕損 100 個	¥1,170,000	
	月末仕掛品 300 個		

月末仕掛品原価： $¥9,750,000 \div 2,500 \text{ 個} \times 300 \text{ 個} = ¥1,170,000$

当月完成品原価： $(¥850,000 + ¥9,750,000) - ¥1,170,000 = ¥9,430,000$

完成品総合原価：直接材料費 ¥5,819,000 + 加工費 ¥9,430,000 = ¥15,249,000

完成品単位原価：完成品総合原価 ¥15,249,000 ÷ 完成品 2,300 個 = ¥6,630

製 品

¥7,440,000	月初製品 1,200 個	当月販売品 2,800 個	¥18,048,000
¥15,249,000	当月完成品 2,300 個	月末製品 700 個	¥4,641,000

月末製品原価： $¥15,249,000 \div 2,300 \text{ 個} \times 700 \text{ 個} = ¥4,641,000$

当月売上原価： $¥7,440,000 + ¥15,249,000 - ¥4,641,000 = ¥18,048,000$